

税理士のひとりごと

税理士の佐藤です。

「頂き女子りりちゃん」こと、渡辺真衣被告に国税局から5900万円余りの督促状が届いたようです（本人談）。逮捕の



きっかけとなった50代の男性3人から「頂いた(?)」計1億5500万円が収益に認定され課税されたようです。

彼女は意外(?)にも論理的で、自分のノウハウをまとめたマニュアル本を販売していました。実際、彼女の作

成したマニュアルを購入した人物による被害が報道されています。

彼女の勧める「頂き女子活動」は大きく分けて3ステップに分かれているようです。

- ① 信頼関係構築
- ② お金を頂くための会話
- ③ アフターケア

確かに、ビジネスの基本を押さえています。しかし、犯罪(だまして)で儲ける事は許されません・・・。

「イチゴ一粒を1000円で売る」

本書も怪しいマニュアル本のようなのですが、筆者は大阪大学を卒業後、大手広告代理店で活躍し、独立後には数々の賞を取っている人物のようです・・・。

本書(「高くてもバカ売れ! なんで?」川上徹也著)は、わが国の99%を占める中小企業が商品やサービスを「理性」で売ってはいけない。なぜなら、価格や品質といった「合理的」な土俵上で大企業やチェーン店に勝つことは出来ないからと冒頭で語ります。

何らかの形で消費者の「感情」を動かし、「感情的な消費」という土俵へ勝負を持ち込むのです。



「発想の転換」

もしスーパーで一粒1000円のイチゴが売っていたら買うでしょうか? たぶん、自分自身のご褒美のために買うという人はなかなかいないでしょう・・・。

しかし、デパートで売っていたら日ごろお世話になっている人、お得意様などのためには買う事があるかも知れません。勿論、商品のクオリティが高く、そのイチゴを頂いた人が感動する事が絶対条件です。

イチゴに限らず、商品やサービスは自分のために買う時は、味や価格という「理性的価値(コスパ)」が優先されます。しかし誰かにプレゼントをする際には美味しさはもちろん、パッケージのおしゃれさや商品を開いたとき



の美しさなどといった「感情的価値」が優先されます。

このように、商品やサービスを購入する目的(動機)が自家用か贈答用で価格に対する許容度が大きく変わるので。

「自分自身のために」

先ほど、自分のものにはコスパ重視といったお話をしましたが・・・自分自身の得(健康など)のためにもお金を使います。

「ヤクルト」は子供飲料とのイメージがありますが、最近は大人向けの商品が重視されています。あの、大谷選手が在籍する米大リー

グ球団、ドジャーズとヤクルトが契約したことが今月報道され話題となりました。

勿論、子供も大谷選手のファンでしょうがターゲットは日中 TV を見ている視聴者でしょう。ほぼ毎日ヤクルトのかんばんの文字を目にするのですから・・・宣伝効果は計り知れません。

実際、最近ヤクルト 1000 が注目を集めています。従来のヤクルト(子供向け飲料?)には、200 億個の乳酸菌シロタ株が入っていますが、ヤクルト 1000(大人向け飲料?)は 1 本 100ml であるのに対して、1000 億個(5 倍)のシロタ株が入っているのです。



従来品を 5 本飲んでも同じ乳酸菌量ですが、ヤクルト 1000 の高密度な状態で体内に入る事が重要で効果が高まる(ヤクルトの研究)と説明しています。

ヤクルト「史上最高密度が配合」され「ストレス緩和」、「睡眠の質向上」、「腸内環境を整える」、「がん細胞を撃退する免疫効果」がある・・・確かに、お金に余裕のある人は多少高くても買いたくなります。

ヤクルトのドジャーズとの契約は世界市場へ打って出る戦略なのかも知れません。

「定義(性格)を変える」

古来から、日本では「安産」、「受験」等、願いをかなえたい時にはお守りを贈る習慣があります。しかし、時代が変わり、お供えの餅はプラスチック、お布施も電子マネーとなりご利益があるのか、ないのか・・・疑いたくなります。

一方、受験のシーズンに「キットカット」を見かけるようになりました。これは、2002 年頃からネスレが受験生応援キャンペーンを行った事で受験を応援するお菓子という不動の地位を築けたのです。

勿論、お菓子という性格は変わりませんが、勇気と希望、元気と満足感を与えるキットカットは「感情的価値」に基づく商品の良い例でしょう・・・



真の富とは道徳に基づくものでなければ 決して永くは続かない

渋沢 栄一

編集後記：

最近、ある政党の他党に対する選挙妨害が問題となりました。当人たちは「言論の自由」だと、資本主義の根幹を正論のように主張していますが・・・本音は SNS、YouTube などで「再生数を稼ぐこと＝お金を稼ぐ」という「資本主義の悪い部分」が目的ではないかと報道されています。

今年は一万円札が渋沢栄一になります。是非、論語と算盤という言葉を商人や政治家が改めて考えて欲しいものです・・・(寿)。